

2 0 2 6 年 度

地 理

注 意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の決められた箇所に記入してください。
3. 試験開始後、解答用紙に氏名・受験番号を記入してください。
4. 試験問題はこの冊子の1～21ページに記載されています。

問題冊子の白紙部分は、メモとして使用して構いません。

5. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

I 世界の農業について述べた次の文を読み、以下の問いに答えなさい。

農牧業は、①地域の自然条件にあわせて展開してきた。その土地の自然的条件や社会的条件にもっとも適した作物を選び、栽培する の生産方式は、企業的農牧業地域によく見られるが、その内容は少しずつ変わってきた。たとえば、②灌漑や品種改良などの技術進歩によって自然的条件への対応可能性は広がっている。農牧業の社会的条件としては耕作方法や経営形態などが主にあげられてきたが、現代ではグローバル化などによって、輸送や市場が農業生産に与える影響も大きくなっている。

この影響は、どちらかといえば先進国よりも新興国や発展途上国において顕著である。④ヨーロッパでも農畜産物の輸出は盛んだが、各国の主な生産物はその国の食文化と結びついていることが多い。それに対して、⑤コーヒーやカカオなどの嗜好品については、生産国と消費国が大きく異なり、主要消費国は先進国に、主要生産国は発展途上国に偏る。特定の農産物の輸出に大きく依存するモノカルチャー経済では、生産する品目も国の経済も他国の動向に左右されやすい。

社会的条件の変化は広範囲におよぶ。⑥食生活の変化などのほか、国家間の政治的取引や関税も農業生産に大きな影響を与えることがある。サトウキビなどからつくられ、内燃機関などにおける石油代替エネルギーとして注目される も、世界の農業生産を変えた要因の一つである。こうした需要の拡大は、とくに⑦経済発展が進む国における農業生産拡大につながっているが、そのための森林破壊や灌漑による悪影響なども生じている。

農業をめぐる需給バランスを見直し、その地域の自然条件にあった生産と消費を重視する地産地消などの考え方も市民権を得ている。農産物の量と、食料が生産地から食卓に届くまでの距離をかけあわせた という指標は、農業や自然を考慮するための消費者責任にかかわるものである。

〔問い〕

- (1) 文中の空欄 a～c にあてはまる用語をそれぞれ答えなさい。なお、a は漢字4字で答えなさい。

(2) 文中の下線部①～⑦に関する以下の問いに答えなさい。

1. 下線部①について，無樹林気候とは寒帯および乾燥帯を指す。すべての農産物の耕作に適さなくなる栽培限界の境界となる最暖月の月平均気温と年間降水量の目安の組合せとして，もっとも適切なものを次の選択肢 あ～か の中から選び，記号で答えなさい。

【選択肢】

	あ	い	う	え	お	か
最暖月気温	20℃	20℃	10℃	10℃	0℃	0℃
年間降水量	500mm	250mm	500mm	250mm	500mm	250mm

2. 下線部②について，地域によってカナート，カレーズ，フォガラなどと呼ばれる地下用水路は古代から続く灌漑方法である。これらの地下用水路が見られる地域の特徴，水源の場所，および地下用水路とされる理由を，50字程度で説明しなさい。

3. 下線部③について，インドでは緑の革命と呼ばれた穀物生産量の増加の後，1970年代以降の「白い革命」，1990年代以降の「ピンクの革命」と呼ばれる農畜産物の生産と消費の増大が見られた。白とピンクが指すものの組合せとしてもっとも適切なものを次の選択肢 あ～か の中から選び，記号で答えなさい。

【選択肢】

	あ	い	う	え	お	か
白	綿花	綿花	ミルク	ミルク	ココヤシ	ココヤシ
ピンク	鶏肉	豚肉	鶏肉	豚肉	鶏肉	豚肉

4. 下線部④について、次の表1は、ヨーロッパのいくつかの国における牛・豚・羊の飼育頭数を示したものであり、表1中の記号 A～C は、イギリス、ドイツ、フランスのいずれかである。その組合せとして適切なものを下の選択肢 あ～かの中から選び、記号で答えなさい。

表1 各国の畜産飼育頭数(2022年)

	牛	豚	羊
A	16,986	12,183	6,598
B	10,997	21,366	1,517
C	9,632	5,192	33,066

単位：千頭

『世界国勢図会 2024/25』より作成。

【選択肢】

	あ	い	う	え	お	か
イギリス	A	A	B	B	C	C
ドイツ	B	C	A	C	A	B
フランス	C	B	C	A	B	A

5. 下線部⑤について、次の表2は、カカオ豆、コーヒー豆、茶の輸入上位5カ国を示したものである。表2中の記号 A～C と作物の組合せとして正しいものを、下の選択肢 あ～か のの中から選び、記号で答えなさい。

表2 カカオ豆、コーヒー豆、茶の輸入上位5カ国

	A	B	C
1位	アメリカ合衆国	オランダ	パキスタン
2位	ドイツ	ドイツ	ロシア
3位	イタリア	マレーシア	アメリカ合衆国
4位	日本	アメリカ合衆国	イギリス
5位	ベルギー	ベルギー	エジプト

『世界国勢図会 2024/25』より作成。

【選択肢】

	あ	い	う	え	お	か
カカオ豆	A	A	B	B	C	C
コーヒー豆	B	C	A	C	A	B
茶	C	B	C	A	B	A

6. 下線部⑥について、次の図1は、日本における、米、牛肉、魚介類、豆類、野菜の自給率推移を示したものである。豆類と野菜に該当するものを、図中の記号 A～E の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

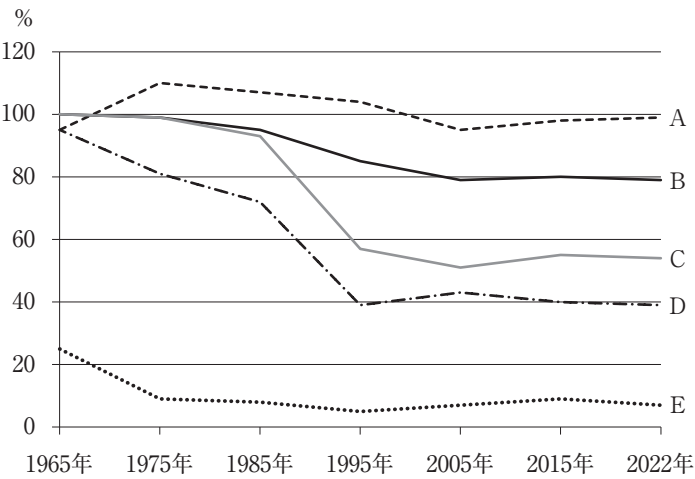


図1 品目別食料自給率の推移(重量ベース)
農林省『食糧需給表』令和5年版より作成。

7. 下線部⑦について、次の表3は、B R I C Sと呼ばれる5カ国の農地面積などを示したものである。表3中のAとDに該当する国名を、それぞれ答えなさい。

表3 5カ国の農地面積と、その陸地面積に占める割合

	耕地・樹園地	牧場・牧草地	陸地面積に占める割合
A	168,048	10,480	60.1
中国	127,580	392,833	55.4
B	123,442	92,052	13.2
C	63,398	159,498	26.7
D	12,413	83,928	79.4

単位：農地面積(千ha)，陸地面積に占める割合(%)。
『世界国勢図会 2024/25』より作成。

- (3) 次の表4は、米、大豆、とうもろこしの農産物の世界生産量の推移を示したものである。AとBが示す農産物名をそれぞれ答えなさい。

表4 米、大豆、とうもろこしの世界生産量の推移(単位：千t)

	A	B	C
1999～2001年平均	165,382	603,672	604,861
2009～2011年平均	250,025	699,978	853,728
2020年	355,866	772,545	1,155,754

『世界国勢図会 2024/25』より作成。

- (4) トマトは、かつては夏の野菜とされていたが、現代の東京では一年を通して店頭に並んでいる。その理由について、次の語群の用語を全て用いて、50字程度で説明しなさい。

【語群】

産地 施設園芸 品種

Ⅱ 東アジアについて述べた次の文と図1を読み、以下の問いに答えなさい。

東アジアは、ユーラシア大陸の東部と半島、及び沿岸の島嶼からなり、大陸部は①西高東低の地形となっている。ゴビ砂漠やタクラマカン砂漠などでは乾燥するのに対し、島嶼部を含めてモンスーンの影響を受ける地域では比較的降水量が多い。こうした地形や気候要素・因子が複雑に作用し合い、多様な自然環境が織りなされてきた。②

黄河や長江、チュー川(珠江)などの大河流域の盆地や平野には広大な耕地が広がる。チンリン山脈からホワイ川にかけての年降水量

 mm線より南部では、主に稲作が行われてきた。しかし、③近年の農業開発により、従来の農業地域の特徴に変化がみられるようになった。また、都市化の進展とともに大都市近郊で園芸農業が発達し、所得向上とともに肉の消費量が増え、畜産も拡大している。④

中国では1978年から経済改革・対外開放政策を進め、安価で豊富な労働力を背景に、⑤急速な発展を遂げてきた。この変化に伴い、台湾の資本による中国大陆への投資が活発になったが、近年では中国での人件費高騰などにより減少傾向にある。また、台湾と中国の安全保障をめぐる対立も世界各国と中国との経済的関係に影響している。このように、中国は東アジアの諸国・地域、ひいては世界に大きな影響を及ぼしている。



図1 東アジアの地図

〔問い〕

- (1) 文中の空欄Aにあてはまる数字として最も適切なものを，次の選択肢 あ～えの中から選び，記号で答えなさい。

【選択肢】

あ 500

い 1,000

う 1,500

え 2,000

(2) 文中の下線部①～⑤に関する以下の問いに答えなさい。

1. 下線部①について、次の図2は図1中の直線 X-Y の断面図であり、下の写真 あ～う は図2中の D～F の環境で暮らす特徴的な動物をそれぞれ示している。図2中のEで暮らす動物として最も適切なものを写真 あ～うの中から一つ選びなさい。

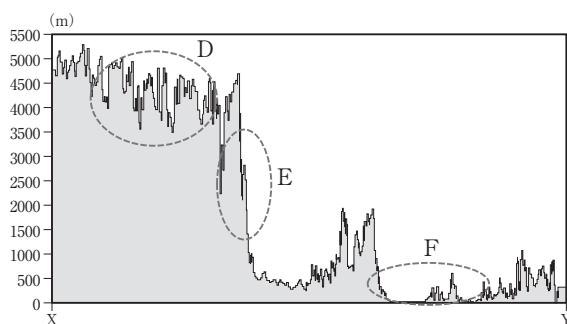
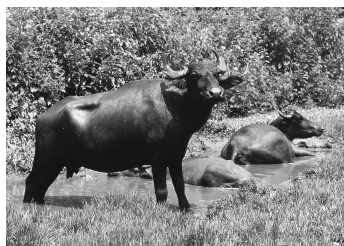


図2 X-Yの断面図

『地理院地図』より作成。



あ



い

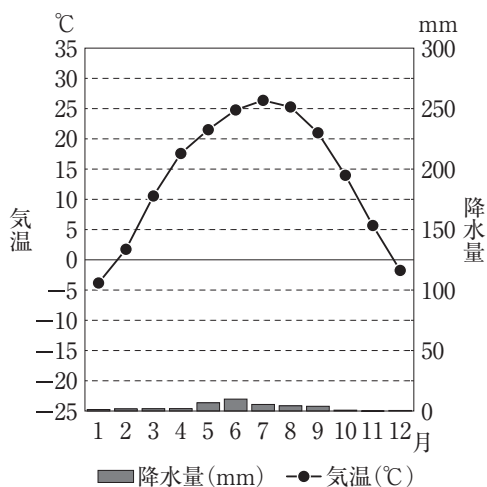


う

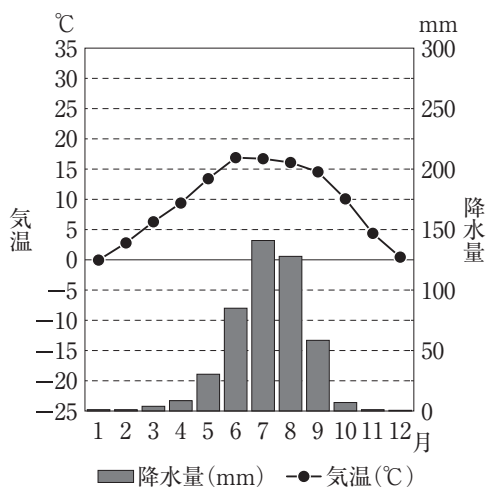
写真

2. 下線部②に関連して、以下の問いに答えなさい。

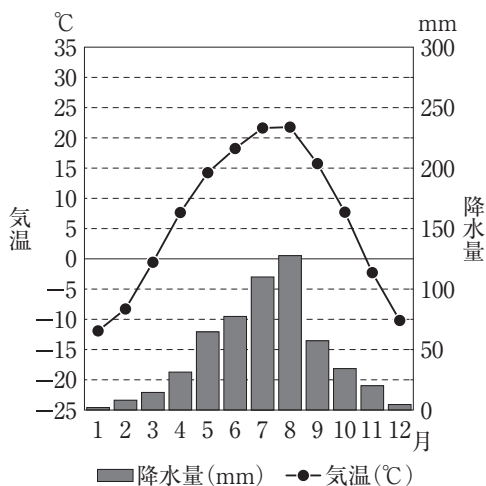
1) 次の図3は、図1中の地点 A～C のいずれかに該当する雨温図を示したものである。地点 B に該当する雨温図を図3中の あ～う の中から選び、その判断理由を気候因子と気候要素にそれぞれ言及して50字程度で説明しなさい。



あ



い



う

図3 雨温図

『気象庁 世界の地点別平年値』より作成。

2) 次の図4は、図1中のシーニン(西寧), テジョン(大田), 東京の月別の気温を示したものである。図4中の ア～ウ に該当する地点の組合せとして最も適切なものを、下の選択肢 あ～かの中から選び、記号で答えなさい。

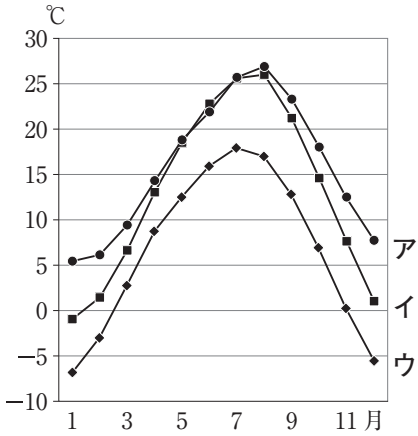


図4 月別気温図

『気象庁 世界の地点別平年値』より作成。

【選択肢】

	あ	い	う	え	お	か
シーニン	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
テジョン	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
東京	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

3. 下線部③に関連して以下の問いに答えなさい。

- 1) 次の図5は東アジア諸国の全産業の付加価値に占める農林水産業の割合と全就業者に占める農林水産業者の割合を示したものであり、図5中のA～Dは、韓国、中国、北朝鮮、モンゴルのいずれかである。AとCに該当する国名をそれぞれ答えなさい。

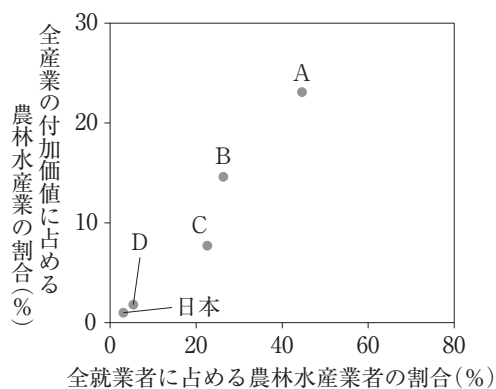


図5 農林水産業の概況(2022年)

『世界国勢図会 2024/25』より作成。

2) 次の図6は東アジア諸国・地域の穀物輸入依存度の推移を示したものであり、図中の記号 A～C は、韓国、中国、香港のいずれかである。香港に該当するものを図6中の記号 A～C の中から選んで答えなさい。なお、中国には台湾・香港・マカオは含まれない。

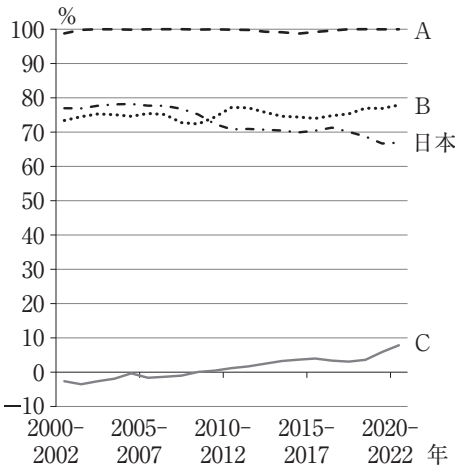


図6 穀物輸入依存度の推移

FAOSTATより作成。

4. 下線部④に関連して、次の表1は東アジアの国・地域における家畜の飼育頭数と肉類生産量を示したものである。表1中の記号 A～D は、韓国、北朝鮮、台湾、モンゴルのいずれかである。台湾とモンゴルに該当するものを表1中の記号 A～D の中からそれぞれ選びなさい。

表1 家畜の飼育頭数と肉類生産量(2022年)

国・地域	牛(千頭)	豚(千頭)	羊(千頭)	肉類生産量(千トン)*
中国	61,230	452,560	194,030	92,949
日本	3,985	8,949	15	4,163
A	4,116	11,111	1	2,727
B	158	5,405	0	1,586
C	5,513	35	32,748	555
D	569	2,413	167	324

『世界国勢図会 2024/25』より作成。

*牛肉、水牛肉、馬肉、羊肉、やぎ肉、豚肉、家きん(鶏、あひるなど)肉などの合計

5. 下線部⑤に関連して、以下の問いに答えなさい。

1) 中国の経済発展について述べた文として適切ではないものを、次の選択肢あ～えの中から一つ選びなさい。

【選択肢】

- あ 中国は社会主義体制を維持したまま市場経済を導入することになった。
- い 沿海部のシェンチェン(深圳)などに外国企業を受け入れる経済特区が設けられ、輸出指向型工業化が進められた。
- う 東北部では改革開放当初から重化学工業化が遅れていたが、近年になって外国の資本や技術を導入して開発が進められるようになった。
- え 農村部では郷鎮企業が海外の企業と合併し、農村の工業化を進めてきた。

2) 中国は1990年代後半から2000年代初頭にかけて、鉄鉱石の輸出国から輸入国へと転換した。その理由を中国国内の変化に言及して60字程度で説明しなさい。

- (3) 次の図7は、東アジア諸国の人口ピラミッドを示したものであり、図中の A～D は韓国、中国、日本、モンゴルのいずれかが該当する。この図7について以下の問いに答えなさい。

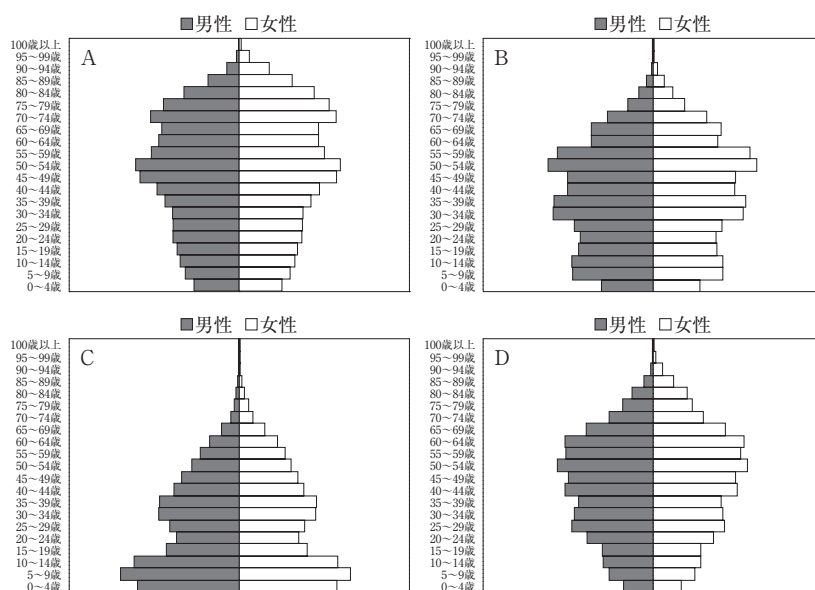


図7 東アジア諸国の人口ピラミッド(2023年)

World Population Prospects 2023より作成。

1. 高齢化が進んでいる順に図中の A～D を並べ、1番目と3番目にあたる人口ピラミッドの記号をそれぞれ答えなさい。

2. 次の図8は東アジア諸国の人口の自然増加率と合計特殊出生率を示したものであり、図8中の記号 あ～え は図7中の記号 A～D のいずれかに該当する。図7中のDに該当するものを図8中の記号 あ～え の中から選び、国名を答えなさい。

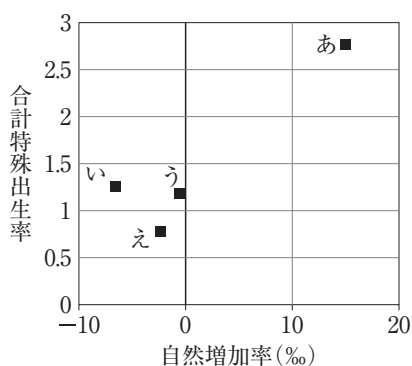


図8 自然増加率と合計特殊出生率(2022年)

World Population Prospects 2023より作成。

Ⅲ 地域調査について，ヒラフミさんとクララさんとのやり取りを記した次の文と図1を読み，以下の問いに答えなさい。

ヒラフミ：地域調査って何をすればよいのかな。

クララ：まずは資料調査から始めてみようよ。私たちが住んでいる横浜市戸塚区について知りたいな。

ヒラフミ：インターネットを通じてどのくらいの資料が集められるのか試してみよう。

クララ：新旧の地形図を比較できるウェブサイトがあるよ。

ヒラフミ：^①すごいね。これで慣れ親しんだ地域の昔の姿もわかるね。

クララ：元々戸塚駅の辺りは、東海道の宿場町として栄えていたようだけど、今は駅周辺を少し離れると^②住宅地が広がっているね。

ヒラフミ：^③人口動態を調べてみれば何かわかるんじゃないかな。

クララ：^④横浜市がウェブサイトで公開している統計情報から表をつくれそうだ。

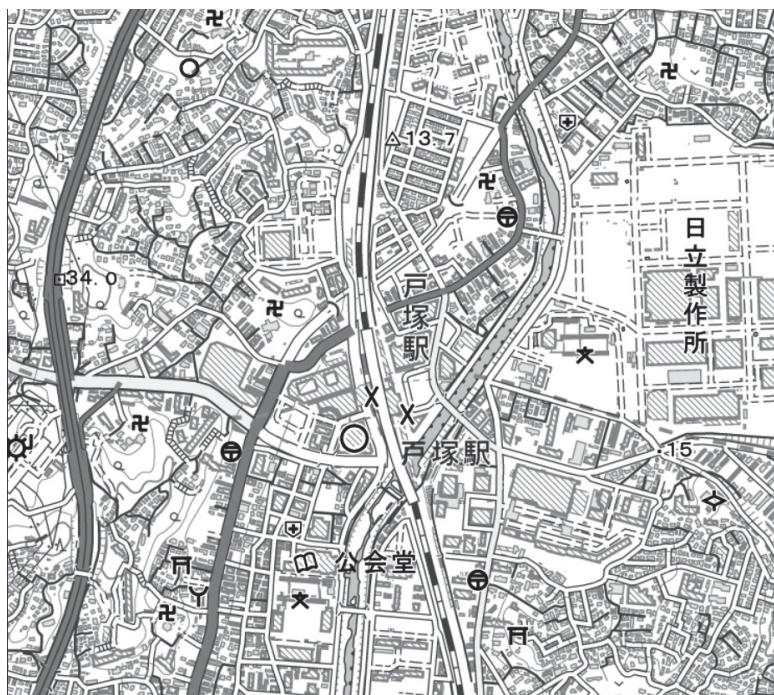
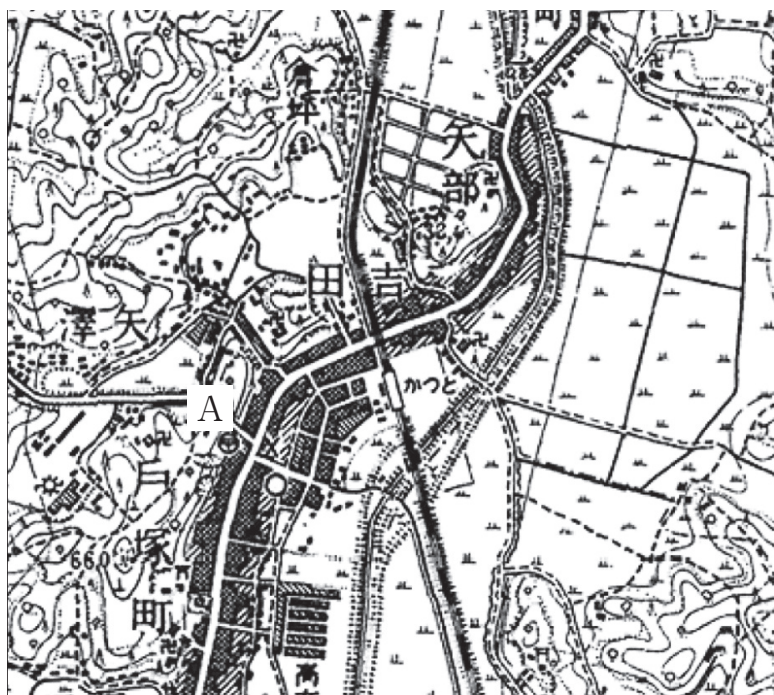


図1 戸塚の地形図新旧比較(上段：1933年，下段：地理院地図)
『今昔マップ on the web』より作成。

〔問い〕

(1) 地域調査の方法論について、以下の問いに答えなさい。

1. 地域調査の手順について、最も適切な流れを次の選択肢 あ～えの中から一つ選び、記号で答えなさい。

【選択肢】

- あ 課題の設定 → 本調査 → 仮説の設定 → 仮説の検証 → 発表
- い 仮説の設定 → 本調査 → 課題の設定 → 仮説の検証 → 発表
- う 課題の設定 → 仮説の設定 → 本調査 → 仮説の検証 → 発表
- え 仮説の設定 → 課題の設定 → 本調査 → 仮説の検証 → 発表

2. 資料とその入手先の組合せについて、適切ではないものを次の選択肢 あ～えの中から一つ選び、記号で答えなさい。

【選択肢】

- あ ハザードマップ — 防衛省のウェブサイト
- い 郷土資料 — 地元の図書館
- う 商業・工業関係の統計 — 経済産業省のウェブサイト
- え 人口関係の統計 — 総務省統計局のウェブサイト

(2) 文中の下線部①～④に関する以下の問いに答えなさい。

1. 下線部①について、新旧の地形図を比較して読み取れた情報として適切ではないものを、次の選択肢 あ～え の中から一つ選び、記号で答えなさい。

【選択肢】

- あ かつては人家がまばらであった丘陵地帯も、ほとんどが宅地化されている。
- い 広範囲に開発の手が及んだ現在では、区役所の位置はかつての町役場より戸塚駅から離れた場所に立地している。
- う 旧東海道の形状は、かつてと現在でほとんど変わっていないが、現在は鉄道の西側にバイパス道路が通っている。
- え 戸塚駅周辺で交差しつつ、鉄道に沿って流れている川周辺の平地の土地利用としてかつては水田が多く見られたが、現在は消滅している。

2. 下線部②について、図1上の地点A付近に見られるような集落形態の名称を、次の選択肢 あ～え の中から一つ選び、記号で答えなさい。

【選択肢】

- あ 円村 い 塊村 う 街村 え 散村

3. 下線部③について、高度経済成長期に建設されたニュータウン(住宅団地)の多くで近年生じている事象として適切ではないものを、次の選択肢 あ～え の中から一つ選び、記号で答えなさい。

【選択肢】

- あ 公共交通機関の拡充 い 買い物難民の増加
- う 少子高齢化 え 空き家の増加

4. 下線部④について、次の表1は戸塚区の人口動態について示したものである。図1における変化と表1を読み取り、東海道の宿場町であった戸塚宿を含む戸塚区は2020年時点でどのような特徴を持つ地域であると考えられるか、特に1955年との違いを踏まえつつ、次の語群の用語を全て用いて70字程度で説明しなさい。

【語群】

近郊 製造業

表1 戸塚区¹⁾の人口の推移

	1955年	1970年	1985年	2000年	2015年	2020年
常住地人口(人) ²⁾	82,084	248,696	443,951	250,865	275,283	283,709
人口密度(人／km ²)	868	3,199	5,708	7,018	7,692	7,927
流出率 ³⁾ (%)	15.6	26.1	33.3	36.7	37.0	36.8
流入率 ⁴⁾ (%)	7.2	10.7	11.6	22.3	23.3	22.3
昼夜間人口比率(%)	91.6	84.3	78.3	85.6	86.3	85.5

横浜市のウェブサイト(長期時系列データ(人口・世帯))より作成。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/tokei-chosa/portal/jinko/choki.html> (2025年6月24日閲覧)

注1)1969年に瀬谷区、1986年に泉区と栄区が分区され、戸塚区の面積は、1955年当時の94.62km²から、2020年時点で35.79km²に縮小している。

注2)1985年と2000年の常住地人口は年齢不詳の者を除外しているため、確定値とは差がある。

注3)流出率とは、当該区域から他の区域へ通勤・通学する人口を、常住地人口で除した値である。ただし、1955年と1970年の通勤・通学人口には15歳未満の数値が含まれていない上に、1955年は通学人口が含まれていない。

注4)流入率とは、当該区域へ他の区域から通勤・通学する人口を、常住地人口で除した値である。ただし、1955年と1970年の通勤・通学人口には15歳未満の数値が含まれていない上に、1955年は通学人口が含まれていない。